

# ハート・オブ・ゴールド



vol.11

2004年6月1日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
本部 〒701-1213 岡山市西幸川 872-2  
T&F 086-284-9700  
メール:hearts05@hofg.orgURL : <http://www.hofg.org/>

## ご挨拶

ハート・オブ・ゴールド  
理事長 萩原 隆

HOGは発足6年目を迎え、有森代表が初回から関係してきたアンコールワット大会も今年は第9回目を開催いたします。

また今回、かねて念願であった現地(カンボジア)事務所も開設のはこびとなりました。

私は2000年4月に理事長を拝命して現在に至りますが、若い同志のかたがたと一緒に働くことを嬉しく思っています。私は1925年生まれで、医家の長男だったため家業を継いだにすぎませんが、伊能忠敬(1745~1818)を尊敬するもの一人です。忠敬は老後になって前人未到の偉業を成し遂げた江戸末期の人物です。彼は佐原村(千葉県)の庄屋でしたが、51歳で隠居し、江戸に出て天文の勉強をはじめ、56歳から測量隊長として17年間日本各地を廻り、大日本沿海実測地図を完成しました。踏破した距離は計三万五千キロ、彼は測量のエキスパートであり偉大なウォーカーでもあったわけです。忠敬が天文を学んだ先生は19歳年下、漢学も17歳若い師の指導を受けています。このように、自分より遥かに若い人からも謙虚に学び、人間関係を築き上げたことが広い人脈となり、大事業を成功させたのです。

HOGはスポーツを通して内外次世代の育成に、発展途上国市民の(主として精神的な)福利厚生運動をしている組織です。どうか各位のお力を、善意と愛情とをお貸し下さい。多数のかたがたのご賛同とご協力とを期待するものです。



## 自立支援のためのボランティアを考えるフォーラム

- 2004年1月29日、東京・大手町で「自立支援のためのボランティアを考えるフォーラム」が開催された。フォーラムは一部が対談・二部がパネルディスカッション形式で進められ、対談は紺野美沙子と有森裕子の二人で行われた。二部のパネリストは有森裕子、山口拓、佐々木則夫、猪熊真の4人で、コーディネーターは深山計。

## 2004年アンコールワット国際ハーフマラソン&青少年スポーツ祭開催予定

本年度も以下の日程でカンボジアで大会を開催。平和の構築、対人地雷の禁止を全世界にアピールし、義手義足支援などを行います。皆様のご参加を心よりお待ちしています。

- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 12月2日 | コーチングクリニック           |
| 12月3日 | 第4回青少年スポーツ祭          |
| 12月4日 | アンコールワットウォーキング大会     |
| 12月5日 | 第9回アンコールワット国際ハーフマラソン |

参加者・指導者  
ボランティアスタッフ  
大募集!!

ツアーは2004年12月1日~6日の予定。

詳しくは以下の連絡先にお問い合わせ下さい。

【ツアーアンケート】ハート・オブ・ゴールド事務局  
Tel & Fax: 086-284-9700  
E-mail: hearts05@hofg.org

【マラソンアンケート】

アンコールワット国際ハーフマラソン実行委員会事務局  
Tel: 024-991-1522 Fax: 024-991-1526  
E-mail: i-yatuyamada@islands.co.jp



### ■アンコールワット国際ハーフマラソン・ウォーキング 2003大会 青少年・指導者育成スポーツ祭 参加者数

#### 1. マラソン (11月30日)

種目> ハーフ(男女)、10km男子、5km女子、ファミリー4km、義足ランナー10km、車いすランナー(ハーフ)

参加者数> 19カ国から1,498名の参加

#### 2. ウォーキング (11月29日)

参加者数> 計178名(5キロ157名 10キロ11名 20キロ10名)

#### 3. 青少年・指導者育成スポーツ祭 (指導者育成12月1日・青少年スポーツ祭12月2日)

種目> サッカー、バレーボール、バスケットボール、ペタンク、バトミントン、ソフトテニス、柔道、空手  
参加者数> 指導受講者: 体育教員・スポーツ指導員150名

現地青少年: 20校から1600名

日本関係者: 200名

※詳細はホームページをご覧下さい。

**■ 日本語教育事業**

日本語教師：檜尾 瞳

写真はチェイ小学校「むつみ日本語教室」の子供達のある日



の授業風景です。時々教室を訪れてくださるお客様で、いろいろと子供達を激励してくださっています。一緒に会話練習をすることで、子供達は質問に答えたり、逆に質問したりして大変盛り上がりました。

「あなたは何になるのが夢ですか？」という質問に対して、シター；「僕は日本語のガイドになるのが夢です。日本のお客さんにアンコールワットの遺跡を案内したり、カンボジアの村の生活を知ってもらったりしたいですからです。」トーホー；「私は日本人がしているレストランで働くのが夢です。日本人にいろいろな日本料理を教えてもらったり、日本のお客さんに日本についていろいろと教えてもらったりして、日本のこと了解更多たいですからです。」

チェイ小学校の子供達に日本語を教えだして、今年の6月で3年が終了しようとしています。大きい組の子供達は今、上のような文型練習で学習を進めています。将来の夢を学習した文型を使って言えるようになって来ています。小さい組の子供達（日本語学習歴1年半）も大きい組の子供達に刺激されながら毎日、日本語を頑張っています。大きい組の子供達がいつも1時間前に来て、小さい組の日本語教室の指導の手伝いをしてくれています。とてもいい雰囲気で授業が進行しています。

また、日本の小学校・中学校との国際交流も3年目を迎えるました。子供同士の国際交流がかなり定着してきました。その中でも特に、岡山の平福小学校・福島小学校は現地のニーズを聞いた上で、こちらの必要としている手作り教材を作り支援してくれています。両小学校の子供達が一生懸命に作成してくれた手作り教材は、遠い国・カンボジアの授業で有効に活用されています。とてもありがたい支援であり、子供達もとてもこれらの教材を大切にしています。

また、宮城県の山下小学校とは子供達が日本語教室の子供達一人一人に作ってくれたオリジナル便箋を使って、手紙や絵の交換をして交流しています。お互いを思いやりながら子供同士の交流を深めています。これらの支援は両国の子供同士の国際交流であり、子供達ならではの国際交流ですが、カンボジアの子供達にとっては、とてもうれしい支援であったり、励みになったりしています。毎年このような国際交流活動をしている子供達の活動の経緯に関わりながら、子供達同士の交流の素晴らしさにいつも感心させられています。子供達って、素晴らしいです!!

**■ 東ティモール・スポーツ支援**

派遣統括官：山口 拓

昨年5月20日に独立を果たした東ティモール民主共和国は、平和な国家を祝う「第一回独立記念式典」を開催し、写真展、スポーツ祭、宗教の祭典などが行われた。その目的は、1) 未だ、世界で繰り広げられている戦争・紛争・テロ行為に対し、「平和の素晴らしさ」を世界に発信すること。2) 独立後の現在も苦難を余儀なくされている国民に対し、勇気と希望を与え、お互いの信頼と結束を確認するためであった。こうした国民の願いに賛同した多くの援助国と援助機関が、独立式典開催に向けて支援を開始した。なお、HOGは、非政府組織（東ティモールスポーツ連盟）および政府組織（青少年スポーツ文化庁）によって構成される「スポーツ祭実行委員会」に支援統括官を派遣し、大会支援を行ない、その後、国立オリンピック委員会の設置に関する援助を行った。現在、各スポーツ連盟から継続した組織化支援の要請が挙がっている。

**■ 東ティモール青少年育成**

派遣者：山口 拓

現在東ティモールは、国連、各国ODA、NGOの支援と共に国家の建設に奮闘している。独立後、国連グループを始めとする各援助組織は、撤退および規模縮小の方向にあり、未だ国家体制が確立していない東ティモールの今後が危ぶまれている。また、過去5世紀に及ぶ統治の歴史は、彼ら自身を中心となって組織を形成・運営する自由を奪っていた過去を持ち、インドネシア時代に強化された教育に至っても、IQの向上に偏った教育政策が展開されている。独自の調査においてEQ教育の必要性が高いと感じられたが、被援助国関連機関からも、HOGによる、青少年育成事業の一環としての「生徒会活動の推進」および「スポーツを通じた青少年育成事業」の展開が期待されている。



なお、HOGは、モデル校として首都ディリのミッション系私立校 St. Joseph High school とパートナーシップを結び、東ティモール政府と共に、「青少年による青少年のための活動（Youth to Youth Project）」として青少年活動を支援した。現在、モデル校の近隣地区におけるピア・エジュケーター及び青少年育成事業の本格化が期待されている。

**■ ハート・ペアレント事業**

現地協力団体代表：松本 清嗣

- ・女子全員と男子一名（最年少）をバッタンバンよりシェムリアップへ移転
- ・女子1名と男子1名が2003年度9月より高校に進学
- ・センター内にて農業（稻・野菜）・養豚・養鶏を行い自給自足の一助とする。

鳥インフルエンザの影響か？平飼い7羽は死滅。ただし、子ども達は元気！伝統舞踊のトレーニングも引き続き行っている。チャイルド・ケア・センターでは子ども達の欠点を克服するとともにそれぞれの長所を発見し伸ばすことを目標として生活や活動を行ってきたが、その結果、それぞれの子ども達が学校や農場あるいはセンターでの共同生活において、適切な役割を分担し協力できるようになってきている。今後は子ども達の職業訓練の取り組みをより積極的に取り組んでいくと思う。里親の皆様のご支援があり、子ども達も元気に過ごしています。今後もどうぞ温かい目で子ども達を支えてやって下さい。

## ★ハート・ペアレントさんとハートチャイルド初対面★



現在23人の方がハート・ペアレント(心の里親)として、カンボジアの子どもたちを支援しています。2003年12月には、ハート・ペアレントさんが、ハート・チャイルドに会いにカンボジアを訪れ、感動の出会いがありました。

## カンボジア事務所開設 アジア支局長：山口 拓

会員の皆様、ご機嫌如何でしょうか？

本年度4月から、アジア支局長として赴任した山口 拓です。さて、現在私は、ここ常夏の国：カンボジア・プノンペンで事務所を運営し、インターの池田くんと共に以下の業務に日夜取り組んでおります。

- 1) アンコールワット国際ハーフ・マラソンの当該国側組織の強化
- 2) 青少年育成事業の本格化に伴う調整及び実施
- 3) 体育科・スポーツ活動の教員・指導員に対する支援
- 4) その他、自立支援事業の調整
- 5) カンボジア政府機関・協力関係団体とのネットワーク

会員や協力者の皆様からの支援や思いは、HOGカンボジア事務所設置により、一層本格的・効率的な活動ができますこととなります。また、皆様により新鮮なカンボジア（東チモール）情報を提供したり、旅行でカンボジアを訪れた際の情報提供窓口として機能したりと、会員の皆様のお役に立てる場ともなります。皆さんのお越しを心からお待ちしております。

メールアドレス：[hofg\\_cam@yahoo.co.jp](mailto:hofg_cam@yahoo.co.jp)

## 真田町の募金活動 東日本支部リーダー：志澤 公一

HOGの支援団体として協力をいただいている長野県真田町が、平成11年5月から平成16年2月までの間、同役場関係施設、観光推進協会施設、福祉施設、同町内各宿泊施設等で行ってきた募金活動により約40万円が集まり、箱山町長からこれを授受して参りました。当日3月12日は有森代表が伺えなかったものの、町長に代表直筆の御礼状を手渡して御礼申し上げて参りました。真田町民の皆様、役場の皆様からの暖かいお財は、責任をもってカンボジア支援活動に充てさせていただきます。本当にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

### 東日本支部便り

東日本支部リーダー 志澤 公一

#### ● 2003年11月～2004年4月までの活動内容について

- 11月28日～12月05日…カンボジア  
11月29日～11月30日…河口湖マラソン（会場内ブース）  
1月29日…自立支援のためのボランティアフォーラム  
(東京サンケイホール内ブース)  
3月12日…長野県真田町募金授受式参加（真田町役場内）  
3月13日…ボランティア全国フォーラム  
(東京泉ガーデンギャラリー)  
4月17日～4月18日…かすみがうらマラソン  
(会場内ブース)

#### ★ボランティア募集

10月2（土）・3（日）、日比谷公園、日比谷公会堂などで開催される「国際協力フェスティバル2004」にもブースを出す予定。お手伝いのボランティアを募集中。

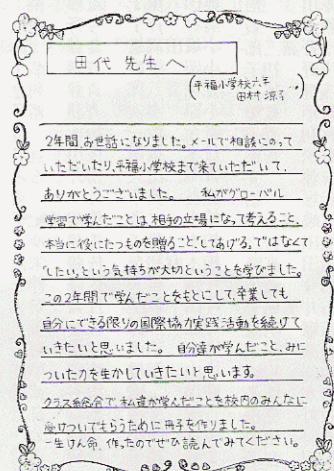


## 2004年千里チャリティーマラソン

3月21日、千里ニュータウン特設コースにてチャリティーマラソンが開催された。21回目となる今回は10マイル(約16キロ)、10キロ、ファミリー2キロの3種目で、昨年を上回る約1,700人が参加。この大会は千里ニュータウン市民、HOG会員、三共株式会社・明治乳業株式会社・銀座ステファニー化粧品・他多くのボランティアの方々の協力のもと行われた。

## サービス・ラーニング（国際理解教育協力）

学校と協力して国際理解、開発などの実践的学習を支援していますが、今年は(財)岡山県国際交流協会の協力をいただき（国際理解エンパワーメント推進事業）、約10校の学校と交流しながら活動した。「世界の友達と私たち 知ろう、考え方よう、関わろう」を学習プランのテーマとして掲げ、現地と日本の学校との架け橋の役割を担った。交流した小学校の先生から以下のような言葉を頂いた。「今回の実践を通し、『カンボジアの人はかわいそう』という子ども達の感想が、『自分たちになにができるだろう』に考えが変わっていました。その思いを実現できる方法を子ども達に考えさせ、実践できたのは大きな成果だと思う。」



### 西日本支部便り

西日本支部リーダー 武藤 勝行

#### ● 2003年11月～2004年4月までの活動内容について

- 1月18日（日）…高槻国際ハーフマラソン（高槻市立陸上競技場）  
3月7日（日）…篠山ABCマラソン（篠山城跡グラウンド）  
3月21日（日）…2004千里国際チャリティーラン（千里南公園）  
★ 国内唯一HOG主催チャリティーランであり、カンボジア復興支援の趣旨に賛同して頂き、地元自治会の皆様とHOG会員皆様と共にボランティアとして活動をしました。カンボジア支援グッズ販売、活動写真パネル展示による啓発活動、ランナー誘導、ランナーの給水、マラソンコース沿道警備、ゴールにて計測チップ回収等々の活動を皆様の協力により無事終了する事が出来有難う御座いました。来年も皆様のご協力をお待ちしております。同日会員交流会（カンボジア活動報告会）を、カンボジア支援関係者、有森裕子代表を交え大阪梅田駅前第一ビル神仙閣にて開催、代表からカンボジアの活動報告、山口拓氏より東ティモールでの活動報告等がなされました。